



2013年の目の出



益城町

議会だより

清水

せい すい

平成24年(2012)12月定例議会 No.50

飯田山頂上からの益城町



学校自慢 袴野中小学校

P14

12月議会の賛否表

P13

組合議会の動き

P12

常任委員会報告

P10~P11

議員研修記

P9

一般質問5名が町政を問う

P4~P8

平成24年度一般会計
補正予算など審議

P2~P3

12月 定例議会

進む地域再生道路工事 第二鉄砂川橋下部工工事費 8,577万2,820円

平成24年第4回定例議会は、12月10日から会期5日間で開かれ、平成24年度一般会計補正予算の専決処分1件、一般会計・特別会計の補正予算5件、条例の一部改正4件などについて審議を行い、可決・認定することに決定した。また、最終日提案された工事請負契約については全会一致で可決した。教育委員会委員の任命についても同意した。

保育所緊急整備事業費などを補正
待機児童解消のため、広崎地区に予定している認可保育所（定員100名程度）の申請に伴い、町、県補助金1億1,355万3,000円、障がい者自立支援給付費国庫負担金1,294万4,000円、青年就農給付金事業補助金1,012万5,000円などの増額補正もおこなった。

第二鉄砂川橋下部工工事の請負契約締結
グランメッセ木山線道路改良事業は、グランメッセから国道443号線までを結ぶ延長3.3キロメートルの路線で平成26年度末完成を予定している。今回の請負契約は、

安永地区にある住宅団地「ニューましき野」の中を流れる鉄砂川に、長さ20メートルの橋を架けるための基礎部分の工事請負契約で、入札方法は一般競争入札でおこなわれ、熊本市にあるK建設が工事費8,577万2,820円で落札した。

町民運動場、町民体育館の設置及び管理に関する条例の一部改正
平成24年度末を持つて廃校になる、袴野中小学校のグラウンド及び体育館を益城町帰属とし袴野グラウンド、袴野体育館とした。その維持管理費用等



正面が鉄砂川橋工事現場

の経費負担割については、これまでの学校組合と同様の益城町3割3分、御船町6割7分とした。

九州北部豪雨等の被災者に介護保険料の減免措置
九州北部豪雨に罹災された方が、阿蘇町から本町に転入され減免の対象となるが、本町には減免規定はあるものの、震災等により罹災した場合の規則委任の規定が定まっていなかったため、今回、規定を設け震災等に罹災された方の介護保険料の減免を適切に行うことができることとした。

町道路線廃止及び認定

保健福祉センターの建設に伴い、益城幼稚園から県道熊本高森線までの延長159メートルを廃止し、新たに町道府内安永線から県道熊本高森線までの265メートルを、路線名保健福祉センター

人権擁護委員の推薦

人権擁護委員の中村拓美さんが平成25年3月31日で任期切れとなるが、町長から再任の提案があり、町長の諮問どおり答申することにした。

線として路線認定した。

教育委員会委員再任3名・新任1名の任命に同意
再任
森永 好誠
上益城郡益城町大字
砥川2108番地
藤田 享幸
上益城郡益城町大字
惣領508番地
松野 憲治
上益城郡益城町大字
宮園713番地
新任
佐野 由美子
上益城郡益城町大字
福原2045番地

ご意見番

青年就農給付金経営開始型事業補助金として 1,012万5,000円を計上

平成24年度補正予算などを問う
畜産団地のし尿槽には浄化槽はないと思うが、し尿槽の糞尿処理はどのようにしているのか。

各豚舎に設置されたし尿槽に集められたし尿は、バキュームカーで堆肥舎内尿溜めへ移送し、堆肥攪拌時に噴霧散布している。

減農薬に取り組む農業者への補助基準と対象物について説明を。
町内に農地を持つエコファーマーや有機農業に取り組む農業者が対象になっている。エコファーマーについては、化学肥料・農薬を慣行レベルの基準値から、5割以上の低減とカバークロップをすることが必要。また、対象作物は水稲、大豆など農作物全般である。



浄化が進む布田川

青年就農給付金経営開始型事業補助金として1,012万5,000円が計上されているが、その内容と対象者はどうなっているのか。
青年層（45歳未満）の新規就農者を確保するため、就農から定着までの生活費や所得を支援する制度である。対象者は現在、12名1夫婦である。

畜産業費の修繕費は雨樋修理と説明を受けたが、豚舎施設の雨樋と理解していいのか。
豚舎施設の雨樋修理等となっている。

秋津川水質調査業務委託料が158万4,000円の減額となっているが、内容にどのような変更があったのか。
公共下水道の供用開始以来、事業に関連のある河川の水質調査を行ってきたが、近年の公共下水道の普及に伴い、調査結果の経年変化に大きな差異がないことから調査年を隔年で、年間調査回数を毎月から年4回としたため委託料の減が生じた。調査内容に変更はない。

保育所緊急整備事業補助金1億1,355万3,000円については、私立認可保育所の新設との説明を受けているが、地域、規模、事業者など具体的な状況を教えていただきたい。
申請中の私立認可保育所の場所は広崎地区で、規模については1

お詫びと訂正

前号（49号）中、数字及び文章の一部に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

ひいては行きたいな



認可保育所建設予定地

***3ページ2段目後から5行目と最後の行**
誤—町外
正—9,200円

***3ページ3段目見出し中**
誤—町外
正—決算

誤—11,200円
正—10,200円

***14ページ「私の学校自慢」中ほど全校児童数**
誤—633名
正—431名

一般質問



稲田 忠則議員

益城台地西土地区画事業地内に複合商業施設を計画しているイズミ「ゆめマート」の進捗状況は

道路交通管理者協議が整うよう、最善の取り組みを行いたい

進出協定後の進捗状況はどうなっているか

稲田 平成24年8月21日の熊日新聞に「イズミ、益城町に複合施設、食品とドラッグストアー、2015年春開業を目指す」と大きく取り上げられた。

計画地は益城台地西土地区画事業地23・4ヘクタール内、その後8月24日に役場でイズミ、町長、区画整理組合の理事長による進出協定の調印式があった。

翌日の25日「イズミ、益城町などと協定、商業施設、来年秋着工」と発表され、計画では食品スーパーとドラッグストアーを併設する「ゆめマート」のほか、家電量販店やホームセンターなどの専門店を集積、総売場面積2万1,000平方メートルを予定、敷地は7万1,500平方メートル、駐車場は1,360台との内容である。その後の進捗状況は現在どのようなになっているのか。

交通解析は終了した地権者の協力を得て成し遂げたい

町長 現在、交通解析は専門家に委託して終了した。結果に基づいて、道路交通管理者協議を熊本県土木部、熊本市都市建設局、熊本県警察、それぞれと鋭意行っている。この規制の中での開発の取り組みは、大変厳しい面があるが絶対成功させたいと思っている。

今後の交通アクセス問題にどう取り組むのか

稲田 この問題を解決しない事業は前に進めない。例えば、区画整理外での道路の拡張や新設などが発生した場合、町はどのような対応を考えられるのか。

この事業は、地権者が土地を提供して財源を捻出するために土地の減歩率が49・13%である。これ以上減歩率を上げないためにも、先行投資として積極的に財源の投入を図り、町に活気と活力を注入するため、この問題の解決に全力で取り組む必要があると思うが如何か。

道路問題の解決に取り組んで行きたい

町長 当初からある程度、町予算もつぎ込む考えは持っていた。

地権者組合、そして進出企業、町との協議の中で成り立っている、地権者の同意が必要である。

そういう観点から減歩率をこれ以上引き上げることができないと思う。今後こういう問題については議会の了解をいただき、町全体が潤うことであり、この道路アクセスの解決に向けて取り組んでいきたい。



イズミ「ゆめマート」完成予想図

一般質問



江越 信保議員

秋津河川沿いの壁画大会については、今後どうするのか

教育委員会・PTA連絡協議会と検討中である

1／2成人式の実施拡充を

各学校の取り組みの中で段階的に発展させる

思い出の壁画の前で勇気をもらった若者も

江越 秋津川の堤防には、小学校の卒業記念として長年実施された壁画がある。

この壁画は当時の子ども達の宝であり、町の宝でもある。しかしながら、来年で製作のスペースが無くなり、今後は続けることが出来ない。壁画大会に変わる行事等を何か考えているのか伺う。

再利用して、実施するか別の企画にするか検討中

教育長 平成13年度に第一回の大会が始まり、本年度12回を迎えた。第6回以降は「熊本教育の日」として、PTA連絡協議会に、教育委員会も主催の一部として加わり現在に至った。しかしながら壁画スペースが来年度分で無くなり、今後の検討をしている。

成人式に映像として活用を

江越 二十歳の成人式に当時作成した壁画を映像で紹介して、当時



未来に想いを込めて（壁画作成）

を思い起こしてもらっては如何か。

早速今度の成人式での上映を検討している

教育長 来月の成人式では早速学校の卒業アルバムと一緒に組み合わせ、式典の15分前から上映する。全部記録を残して、もう一回再利用も考えてみる。

1／2成人は10年間で振り返ったり将来の夢を語り合う時間

江越 20歳の成人式には諸般の事情で生まれ育った益城町の成人式に参加できない人もいる。丁度10歳の時、1／2成人式を実施しては如何か。

この10年を振り返ったり、将来の夢を語り、親への感謝の言葉を綴ったりと、大人へ向かう節目になるのではないかと。

実施した感想が子どもの立場からと、親の立場から寄せられている。子どもの素直な将来に向けての思いや、親からは子どもの成長に感動した等と、とても感動的である。

現在の取り組みから更に段階的に発展させる

教育長 現在益城町においては、実施していない学校、あるいは学級単位、または学年単位で実施している学校など様々である。4年生の国語の授業に「10歳の私の文集」という時間がある。こうした時間を活用して1／2成人式を計画から実施までやっている学校もある。今後はこうした取り組みを学校ごとに段階的

に発展させるのが望ましい。

子ども議会の開催要領、準備状況は



クラスで行われる1/2成人式

江越 子ども議会は、子ども達の自由でユニークな発想と、議場に臨むことで多くの経験と思い出に残る機会である。

社会に対する責任と自己主張の場を与える良い機会であり、準備には万全を期すべきである。状況は如何か。

議員選出、質問内容等しっかり準備をしていく

教育長 平成25年2月6日に実施する。これに向かって各学校毎、議員2名を選出する。答弁についてもしっかり準備を行なう。

一般質問



甲斐 康之議員

年少扶養控除の廃止で増税となる子育て世帯への支援は

地方交付税等の削減で増収以上の負担増となる
子育て支援は既に取り組んでいる

中小企業振興基本条例を制定してはどうか

制定に向けて取り組んでいきたい

年少扶養控除の廃止で増税はどのくらいか

甲斐 子ども手当の廃止であるが、全体に減額となっている。

しかし、年少扶養控除が廃止されたままで、結果として増税となっている。所得税・住民税などの町税の増税額はいくらかの。

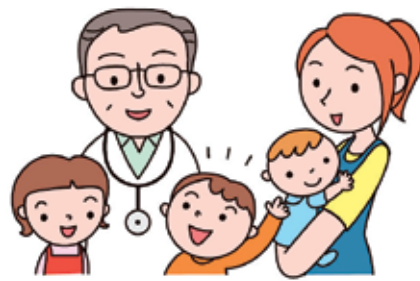
地方交付税等の削減で増収以上の負担増となっている

町長 増税額は6,500万円程度と推計する。しかし、増収分に対する地方交付税は4分の3減額となり実質1,600万円となるが、児童手当の町の負担が1,800万円となり、差引200万円の負担が増える。

税負担増となる子育て世帯への支援を考えているか

甲斐 地方交付税等の減少があつて、町の負担増があると言われても、子育て世帯は税金の負担増となっている。新たな子育て世帯への支援を考えるべきではないか。

益城町は、子育て世帯の転入が増加している。ますます子育て世帯への住民サービス支援は欠かせないのではないかと。



保育環境の充実に既に取り組んでいる

町長 子どもの医療費助成や病後病児保育事業や保育環境の充実に既に取り組んでいる。

今後も更なる子育て支援に努めたいと考えている。給食費の無料化については、国の施策の変化でできなかった

が、今後、町として取り組めるかしつかりと、研究を重ねていきたいと思っている。

中小企業振興基本条例を制定してはどうか

甲斐 長引く不況により、県内の経済は滞っていることから、中小商工業者の経営は厳しい経営を強いられている。

地域の再生のためにも、雇用と地域経済を支える中小企業者を元気にすることが重要である。地元商工業者の活性化を目的とする中小企業振興基本条例を制定してはどうか。

制定に向けて取り組んでいきたい

町長 町では小規模事業工事業契約希望者登録要項を定め、中小業者の受注機会の確保に関する措置を取り扱っている。

制定に当たっては、関係課や商工会、事業者などと連携を図り、しっかりと検討しながら制定に向けて取り組んでいきたい。



住宅リフォーム助成制度を早急に取り入れてはどうか

甲斐 現在小規模事業工事業契約登録制度があるが、これは、町との受注契約であり限界がある。

地元小規模事業者の仕事を増加させるためにも、より受注幅が広がる町民との契約となり、予算額の10倍以上の経済効果がある住宅リフォーム助成制度を早急に取り入れてはどうか。

財源を確保しながら研究は続けていきたい

町長 地域経済は厳しい環境にあるのは事実。弱者救済、あるいは支援等については、現に財源を伴う問題である。住宅リフォーム制度等についても、まず財源を確保しながら研究は続けていきたい。しっかりと受け止めて頑張っていきたい。

一般質問



坂田みはる議員

いじめ問題に関する認識と取り組みは進んでいるか

自立支援事業を全部の学校で取り組んでいる

いじめの発生件数は

坂田 滋賀県大津市立中学校2年生男子生徒が、昨年自殺をしてしまったことは記憶に新しいと思う。

いじめで尊い命を自ら絶つ、命が奪われる。あつてはならないことはもちろんだが、子どもたちを守るべき学校や先生のいじめに対する認識や対応に問題があることや、大津市のように、自殺という最悪の事態になった後の教育委員会の不適切な対応が表面化した事は、保護者の信頼を大きく無くしてしまったと思う。

当町においては、益城町E-Iプランを基にして、学校教育の充実が掲げられているが、今年の4月から教育委員会に報告されたいじめの発生件数は、何件あったか伺う。

アンケート結果では80人を超えていた

教育長 8月に文部科学省が実施した「いじめ問題に関する児童生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取り組み状況にかかる緊急調査」を

実施した結果、いじめを受けたと答えた児童生徒が80人を超えていた。その中で、20人近くが8月の現在今も続いていると答えていた。

発生の経緯とその対応は、解決につながったか

坂田 問題発生の経緯と、いじめ発見の際の先生、学校、教育委員会としての対応がどのようにされたか。

背景や状況は異なる解決に向けて努力している

教育長 アンケートの項目の中で、冷やかしからかい、悪口やいやなことを言われる、仲間外れや集団による無視、この項目を選んでいる児童生徒がほとんどだった。中にはたたかれたりけられたりする、いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりするなどの項目を選んだ児童生徒もいた。以前から、学校で把握したいじめについては早期に適切な対応を行うこと、難しい問題については、その都度教育委員会に報告するように学校に指導し、連携して解決に向け努力している。

8月のアンケートで、今も続いていると答えた児童生徒のいる学級を中心に詳しい調査を行い、状況を把握し学校で適切な対応を行った結果、11月現在すべて解決している。

教育委員会のあり方と役割をどのように考えるか

坂田 教育委員会に求められていることは、大津市教育委員会の悪例にならうことなく、指導方針を明らかにし積極的に表に立つて指導いただきたいということである。



小学生になっても、中学生になってもこの笑顔をとらげないで!!

教育長 役割としては、いじめの起きにくい環境づくり、早期発見、早期解決の手立てを示し、各学校に指導助言を行っていく事だと考える。

早期発見、早期解決の手立てを示す

例えば、ソーシャルスキル学習や幼保小中連携カリキュラムを作成し、発達段階に応じた指導支援をするなど子どもたちの自立支援事業を全部の学校で取り組んでいる。

また、個別相談、個人ノートの担任とのやり取りなど実情に応じて取り組んでいる。



健康運動教室など、この町でもやっていそうだが、ここでは公民館やふれあいセンターなどいろいろな施設に運動用具を設置し教

全国的に増え続ける医療費の抑制を図るため、新潟県見附市では「日本一健康なまちを目指して」をキャッチフレーズに、市が中心となって健康なまちづくりを推進している。

食生活（健全な食生活の実践・運動（ウォーキング、健康運動教室）生きがい（心安らぐ公園・つくり・脳の健康教室）健診（健康の駅）の設置・小児生活習慣病予防事業）の4本柱を掲げ、いきいき健康づくり計画を作成し、市民の健康づくりに力を入れていた。

この4本柱の中で興味を持つのは、健康運動教室と小児生活習慣病予防事業である。



健康運動教室の会場

健康なまちづくり

新潟県
見附市

平成24年 議員研修



訪れる人たちの「笑顔と幸せ」を創出すること。そこから町の経済を発展させるこ

10月30日、議会研修は群馬県の北部に位置する「みなかみ町」を研修した。

日本名山「谷川岳」を有する山間の町であり、フルーツの里としても有名で、りんご観光組合を設立し、観光農園としても力を入れている。

しかしながら年々観光客の減少に伴い、人口も減少し、現在では21,000名の町である。

そこで「みなかみハピネス計画」という、「スポーツ・健康まちづくり宣言」「笑顔つていいよね」を基調にしたプロジェクトが立ち上げられたことである。

この計画は、町民の皆様や町を

とつながるという発想である。

具体的には、スポーツプロジェクトはデサント社と協賛し、町の特徴を利用したアウトドア教室を開催し、都会の子ども達に町を提供する。

ビューティ&ヘルスタウンプロジェクトはフルーツの「ドール」社と提携し、同社の看板を出させたレストランを開店させる。またフルーツのカッティング教室を町で開催し、費用はすべてドール社が受け持ったり、各種イベントの開催時には同社のバナナを提供するなど企業や団体と交流、協働したまちづくりに取り組んでいた。

また、東京芸術大学の学生の作品を町に寄贈してもらい、公共施設に展示するなど町民に身近なアート、ギャラリーを楽しんでもらうなどアイデア豊かな町づくりに取り組んでいた。

私達の町も「日本一住みよい町づくり」に取り組んでいるが、今回の研修は、さらに町の将来の展望を考えさせられる研修であった。

総務常任委員長 江越 信保

一般質問



坂口 政弘議員

小規模特認校の取り組みについて 計画は？

平成26年度の新学期から実施したい

児童数の減少について
どう対処していくのか

坂口 益城町は、過疎校区と過密校区が両極端な町だろうと思う。特に飯野・福田・津森校区においては児童数が減少している。これをどう考え、どう捉えていくのか。

そこで、小規模特認校の取り組みについて質問する。

小規模特認校とは、自然環境に恵まれ、特色ある教育活動を推進している小規模の小学校や中学校で、心身の健康増進を図り、豊かな人間性を養いながら保護者の希望に応えるとともに、小規模校の一層の活性化と複式学級の解消を図ることが目的である。

益城町は、豊かな水と美しい山々に囲まれ、自然に恵まれた環境である。

先哲を育み、歴史ある郷土であり、地域との交流大切にし、豊かな人間性や自然を愛する心を養いながら特色のある学校教育ができるのではないか。

町内全域として取り組んでいただきたい。

特色ある学校の在り方について検討し、準備を進めていきたい

教育長 益城町には五つの小学校と二つの中学校がある。そこで学校教育法の施行令の規定を受けて、益城町立学校の通学区域に関する規則を定め、各学校の通学区域を指定している。

小規模特認校制度は、豊かな自然環境などの特色を生かした教育を実施している学校に、真にその有する特色を理解し、その中で子どもに教育を受けさせたいという場合に限定し、指定された就学校を変更して、併せて学校と地域との連携や活性化を図る制度である。



津森小学校登校風景

益城町教育委員会でも協議しているが、特認校となる学校がそれだけの魅力を持つていることも重要であり、今後は、その特色ある学校の在り方を町の校長会議等において検討していただき、準備を進めていきたいと考えている。

具体的には、飯野小学校と津森小学校を小規模特認校に指定して、広安小学校、広安西小学校及び益城中央小学校の三つの学校の通学区域の児童に限り、二つの特認校への入学、あるいは途中からの転入学を認めることを考えている。

様々な問題について、力を結集して取り組み、町を発展させたい



津森小学校正門

魅力あふれる地域の学校づくりと取り組み

坂口 地域の者として、補助金制度も活用しながら少しずつ児童数の増加に取り組んでいきたいという気持ちを持っている。教育長の前向きに取り組んでいくという発言は大変うれしく思う。

最後に町長の考えを伺いたい。

町長 教育長から、小規模特認校の取り組みを平成26年4月から実施すると言明していただいたことは素晴らしい前進ではないかと思っている。

福田校区・飯野校区の様々な状況については、新築家屋の補助金制度等の充実や地域の皆様のご協力もあり、よくなってきた。また津森校区についても下水道工事が進行中であり、完成度合いを深めながら行っていく。

多くの町民、そして全議員の皆様、そして私も執行部がその力を結集してこそ町は発展していくと考える。今後ともご協力をお願いしたい。

12月議会 常任委員会レポート



頂上よりのすばらしい眺望



公園整備に向けて視察

基盤整備 土地改良との協議調整を

建設 経済



畜産団地現地視察（赤井地区）



町道小池一本杉線側溝整備現場視察

建設・経済常任委員会では、付託された4議案について審査を行い、いずれも原案の通り全会一致で可決・認定した。

なお、平成24年度一般会計補正予算では、青年就農給付金について質問があり、国の農政への考え方に疑問があるとの意見があった。

また地籍調査に関連

現場視察では、畜産団地（赤井地区）、飯田山自然公園及び町道小池一本杉線側溝整備の現場では整備状況等について確認をしたが、特に飯田山自然公

園では今後町民の憩いの場所として、大いに期待できる認識を深めた。

常任委員会レポート 12月議会

総務

飯野・津森小学校 に他の校区からも 通学

総務常任委員会で、付託された5議案について審査を行い、原案のとおり可決した。

今回は平成24年度益城町一般会計補正予算の他、益城町暴力団排除条例の一部を改正する条例の制定等であったが、特段の意見も無く前回一致ですべてを可決した。

て委員会で審査をしていくとの回答があった。

現地視察については、飯田山自然公園の開発状況を視察した。自然との一体開発を念頭に、自然を大事にした自然公園づくりを目指し、頂上付近ではすばらしい眺望が開けており、まさに自然の展望であった。

しかしながら高齢者等の登山は問題があり、今後一部の車両だけでなく自家用車での登山が可能になるよう整備を希望する意見があった。

その他の項目において、小規模特認校について、飯野、津森小学校に対する募集の取り組みについて質疑があり、通学態勢等の関係等から教育委員会規則を改める必要から、同委員会の中で議題として取り上げ、検討する旨の回答があった。

更に送迎の問題、PTAの問題を含め、9月頃の募集期間を定め

国民健康保険の医療費

現時点では好転している、更なる健診等の周知・推進

福祉



飯田山公園整備工事現場



認可保育所建設予定地（広崎地区）

福祉常任委員会で、付託された5議案について審査を行い、関係課長から詳細な説明を受け、慎重審査の結果、いずれも原案のとおり全会一致で可決した。

なお、益城町一般会計補正予算中、病児・病後児保育事業について質疑があり、月ごとの利用状況（月平均29件）等について説明を受けた。また、建設予

定の認可保育所について、建設予定地や入所予定人員等の質疑があった。国民健康保険の医療費については、現時点では好転しているとの説明を受けた。

4月からの住民説明会等で国保の財政状況や健診の必要性を周知したことで意識が向上した結果だと考える。

現状に甘んじることなく今後も町全体で健康づくり事業を推進す

る必要がある。

現地視察においては、飯田山公園整備工事現場では、順調に工事が進捗していることを確認した。

また、広崎地区の認可保育所建設予定地を確認した。

《12月議会での主な議案への賛否の状況》																				
事 件 名		結 果	福永 誠一	竹上 公也	山内 親宣	渡辺 誠男	荒牧 昭博	稲田 忠則	森上 祐一	坂田みはる	中村 健二	江越 信保	石田 秀敏	坂口 政弘	寺本 英孝	甲斐 康之	坂本 貢	宮崎 金次	高橋津代美	野田 祐士
予 算・条 例 等	平成24年度一般会計補正予算（第3号）専決処分	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平成24年度一般会計補正予算（第4号）	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
	平成24年度国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平成24年度介護保険特別会計補正予算（第2号）	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平成24年度公共下水道特別会計補正予算（第2号）	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平成24年度水道事業会計補正予算（第1号）	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	暴力団排除条例の一部改正	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	町民運動場の設置及び管理に関する条例の一部改正	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	町民体育館の設置及び管理に関する条例の一部改正	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護保険条例の一部改正	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	上益城広域連合の処理する事務の変更及び規約の一部変更	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	町道の路線廃止について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	町道の路線認定について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	工事請負契約の締結について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	物品の購入について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教育委員会委員の任命同意について（4件）	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人権擁護委員の推薦について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	町議会会議規則の一部改正（議員提出）	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ×：反対 棄：棄権 欠：欠席 可：可決 否：否決 裁：議長裁決

上益城郡内町議会大会にて



空港周辺4カ町村大会にて



スナップショット

他町村議会議員との親睦を図るために開催されたグラウンドゴルフ大会の一コマです。

残念ながら2大会とも益城町議会チームは3位という成績でしたが、和気あいあいの中にも熱戦が繰り広げられました。

議会広報編集特別委員会	
委員長	中村 健二
副委員長	坂田みはる
委員	江越 信保
委員	竹上 公也
委員	甲斐 康之
委員	野田 祐士

（文責 中村健二）

▼今、日本の政治に大きな影響を与えているマスコミ、最近の報道、特にテレビは、視聴率至上主義が前面に押し出されているようで、何か無責任さを感じているのは私だけでしょうか。もともと社会への影響を考えて報道してほしい気がします。

▼議会広報はしっかりと中身の充実を図り、議会のことが分かりやすい「清水」にして行きたいと思っています。

▼平成25年は、新しい政権で幕を開けました。前政権のように選挙のためだけの政治ではなく、真に国民のための政治を「新政権」には期待しています。

編集 新年あけましておめでとうございます。 後記 平成23年、東日本を襲った大地震、想像を絶する大津波による大災害、平成24年は北部九州を襲った大豪雨で甚大な被害の出た2年でした。国政では甘い言葉に惑わされ、それに気づかされた2年でもありました。



消防ポンプ車製造工程を視察（日本機械工業）

「日本機械工業」では、当組合で消防ポンプ車の更新が本年度に予定されており、受注先である同社において製造工程、品質管理、車両の仕様等について説明を受けた。

また、「総合防災センター」では、体験学習を交えた防災知識の普及啓発を図る拠点施設とする一方、災害が起きた際には、県内を一体とした広域的・総合的な救済活動の中央基地となるため、約6万6千㎡の敷地内に防災備蓄倉庫や消防学校等を併設することで、有効に機能する災害時避難場所として準備されているとの説明を受けた。

今回の視察では、多種多様な災害が全国各地で起きている現状を踏まえ、改めて災害に対する長期的・短期的な対策や準備の重要性、更には防災意識の普及啓発がいかに大切であるかを再認識させられるものとなった。



防災備蓄倉庫を視察（総合防災センター）

説明会では、熊本市への事務委託方式による消防広域化で高度通信システム化、消防力強化、コスト縮減などの「メリット」等の説明がありました。

①昨年離脱した2つのブロックの離脱原因

②事務委託方式について

③財産の取り扱い

④消防組織及び運営等についての質疑が相次ぎました。

応答の中で、①離脱原因として、広域化への不安（署所の廃止・一局集中、負担金の割合など）が払拭できなかったこと。②事務委託は、人事・採用権などの権限が熊本市に移行すること。③高遊原南消防本部の建物、土地、車両等の財産を熊本市に無償貸与又は無償譲渡とするものの、施設整備等に伴う地方債の償還

は、益城町と西原村の債務となること。④広域化による協議が必要な重要事項は、広域化後に設置される「運営協議会」で調整を図るようになっており、合併時点で明確になっていないことや「デメリット」などの不明瞭な点が多々あることでした。

救急車・消防車・署員・救急救命士の現状維持は可能なのか。広域災害時の熊本市からの益城町への支援は可能なのか。人事異動など権限が失われること、救急車の一台当たりの人口割合が熊本市は約3万7千人、益城町は1万6千人と益城町が少ないこと、出勤回数も熊本市の方が多いことから益城町からの支援出動が増えるのではないのか。その間益城町での対応ができるのか、協議項目の中に重要な問題点が盛り込まれていないことなど、事前に明確にすべき事項が残されている。

広域化により、住民の安全安心が後退するようなことがあってはならないと考えます。

組合議会から こんにちは!!

高遊原南消防組合

「日本機械工業株式会社」

「神奈川県総合防災センター」を視察

組合議会は、10月10日から12日にかけて、東京都八王子市にある「日本機械工業株式会社」及び「神奈川県総合防災センター」を視察した。

「日本機械工業」では、当組合で消防ポンプ車の更新が本年度に予定されており、受注先である同社において製造工

程、品質管理、車両の仕様等について説明を受けた。

また、「総合防災センター」では、体験学習を交えた防災知識の普及啓発を図る拠点施設とする一方、災害が起きた際には、県内を一体とした広域的・総合的な救済活動の中央基地となるため、約6万6千㎡の敷地内に防災備蓄倉庫や消防学校等を併設することで、有効に機能する災害時避難場所として準備されているとの説明を受けた。

消防広域化の議員説明会が開かれました

高遊原南消防本部と熊本市消防局との間で消防広域化にむけて合併の協議がおこなわれているところですが、進捗状況について議員説明会が1月13日に開かれました。

説明会には、県消防保安課、熊本市消防局、高遊原南消防本部の各担当者と町長、益城町議会全員が出席しました。

消防広域化については、平成20年5月に「熊本県消防広域化推進計画」を策定して推進を図ってきましたが、上益城消防組合・宇城広域が中央ブロックからの離脱に続き、城北ブロック（有明・山鹿植木・阿蘇）と、城南ブロック（八

広域化についての質疑相次ぐ

説明会では、熊本市への事務委託方式による消防広域化で高度通信システム化、消防力強化、コスト縮減などの「メリット」等の説明がありました。

①昨年離脱した2つのブロックの離脱原因

②事務委託方式について

③財産の取り扱い

④消防組織及び運営等についての質疑が相次ぎました。

救急体制は後退しないか

救急車・消防車・署員・救急救命士の現状維持は可能なのか。広域災害時の熊本市からの益城町への支援は可能なのか。人事異動など権限が失われること、救急車の一台当たりの人口割合が熊本市は約3万7千人、益城町は1万6千人と益城町が少ないこと、出勤回数も熊本市の方が多いことから益城町からの支援出動が増えるのではないのか。その間益城町での対応ができるのか、協議項目の中に重要な問題点が盛り込まれていないことなど、事前に明確にすべき事項が残されている。

広域化により、住民の安全安心が後退するようなことがあってはならないと考えます。

皆で健康を考えよう

健診は病を見つけるのではなく、病から身を守る行為である

皆さん健診は病を見つけるに行くのじゃありませんよ。「初めて健診にいったらいろいろ言われてな」というような声をよく聞きますが、それこそが予防、身を守る行為なのです。

最終宣告を受けたのであれば、何故もつと早く受けなかつたんだらうと思うでしょう。

言われるうちは、言われたことをしっかりと守つていけば大きな病にならないで済むかもしれないですよ。健診はまた次にでなく年に1回は必ず受けましょう。

議員研修記(P.9)でも触れていますが、新潟県見附市では、小学校



見附市の小児生活習慣病予防健診

4年生と中学校1年生を

対象に無料で健診。血圧、

血中脂質、肥満度による

総合判定。小4の36.4%

中1の36.1%が生活習慣

病予備軍との結果を見て、

子どもの時から正しい生

活習慣と正しい食生活を

身に着けることの大切さ

と、健診の大事さを再認

識しました。

(中村)



袴野中小学校

朝日に映ゆる 阿蘇が峰
永遠の煙を 仰ぎつつ
有明の海 遠方に見て
建つや袴野 我が母校

この詩は、今年3月で閉校となる袴野中小学校の校歌です。

緑豊かな奥深い山の中に、大正4年2月に小学校創立、昭和23年1月に中学校が設立され、児童生徒に歌い継がれて来ました。

今回は6名の児童を中心に、子ども達を支える先生方、保護者、そして地域の方々の強い絆と協力のもと行われた、袴野小学校最後の文化祭を紹介します。

平成24年11月11日、折からの雨模様、吐く息も白くなる寒い一日となつてしまつたこの日、オープニング合唱「こゝで生きていく」が披露

され、スタート
ステージプログラムには、3名の6年生、1名の4年生、2名の2年生がいくつもの発表に臨みました。

童謡発表、合奏、太鼓の演奏、総合学習、外国語発表どれも子ども達の持てる以上の力が発揮されていることに感動さえ覚えました。2年生の一人は、小さな体で4年生、6年生に負けないうらいの大きな声でエネルギーを出しきり見事な発表でした。

また、特に創作劇「ありがとつ」の熱演は、6名の袴野つ子の今の心境が痛いほど伝わってきて、私の心にも熱いものが込み上げ思わず涙してしまいました。

もちろん、先生方や保護者の出番にも感動



先生と子どもたちの奏でるメロディーは心に響きます



第12回町内小中学生壁画大会 (H24.11.8)

教育環境が全てにおいて十分であつたとは言い難い中、その限られた環境から子ども達が得た経験や、学習意欲、協力の意味、絆の深さ、そして感謝の気持ちが一十二分に育まれていてと感じたのは、私ばかりではなく、この日の文化祭に訪れた多くの方々も同じであつたうと思ひました。

雨の日も風の日も、燦々と降り注ぐ真夏の太陽の下でも、学校までの山坂道を歩く6人の無邪気な笑顔と笑い声、その姿がもうすべて懐かしさに変わります。

でも、6人の子も達はずれぞれの場所で、これからまきと自信と誇りを胸に元気にステップアップしてくれることでしょう。期待を込めて

(取材 坂田みはる)